

三陸の海を放射能から守る 岩手の会

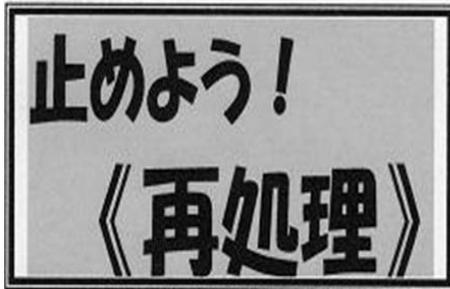
郵便振替 02240-5-102650

ホームページ《再処理/岩手の環境》

<http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm>

《まった再処理分庫》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag



《天恵の海》

2011(平成23)年

12月12日

第106号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

東海再処理工場 高レベル放射性廃液 首都圏近く、完璧の安全対策を!

全国の七五市民団体 原子力研究開発機構に公開質問状



砂丘の松林の中の 再処理工場

面会場所は、東海村にある原子力機構、核燃料サイクル工学研究所アトムワールド展示館でした。再処理工場や東海第二原発は砂丘の続く

「東海再処理工場の液体状の高レベル放射性廃液は過酷事故に繋がる。早急に固化するなどの絶対の安全対策を取るべきだ」。十一月二十九日、再処理工場に反対する全国の市民団体の代表が公開質問状を、(独)日本原子力研究開発機構(鈴木篤之理事長、本社・茨城県東海村)に提出しました。提出を呼びかけたのは「脱原発とうかい塾」反原子力茨城共同行動」そして「三陸の海を放射能から守る岩手の会」の三団体ですが、全国の七二の市民団体が賛同し名を連ねました。

松林の中に立地していません。

地元茨城県から十人、岩手から四人が応接室に通され、サイクル工学研からは地域交流課の佐々木清課長、黒田勉氏、岡田圭史氏、管理部チーフの井上孝治氏が出席しました。マスコミから五社が取材しました。

公開質問状を提出

先ず「岩手の会」世話

『公開質問書』の主な内容

東海再処理工場に保管されている高レベル放射性廃液は大地震対策等が施され安全に管理されているか?

- 1, 高レベル廃液394m³はどこでどのように管理されているのか。冷却が止まると何時間で沸騰するか。
- 2, 貯蔵槽の数、槽の冷却装置、水素除去装置は電源喪失等に万全の対策が施されているか。
- 3, 過酷事故の「アセスメント」はなされているか。
- 4, 過酷事故が起こった場合の対策はどのようになされているか。
- 5, 液体状では危険なので早急に固化し保管するべきではないか

*本文は「岩手の会」ホームページ。

主な質疑内容

(○)市民側 ●原研機構

人の永田文夫さんが、公開質問状を読み上げて提出しました。佐々木地域交流課長は、「質問状は受け取りました。後日文書で回答します。」とし、さらに「再処理工場からの廃液は放出基準を満足し安全に管理しています」と述べました。この発言に対して市民側は「再処理工場の廃液の国の放出基準はない。事業者が定めた『管理目標値』があるが大変ゆるい枠だ。国の基準値がないのにいかにあるような言い方ではないか」と追及し、交流課長は『管理目標値』であると認める場面がありました。

○高レベル廃液がどれだけ貯蔵されているのか。二〇〇八年三月末には三八五立方メートルだったが二〇一一年九月には三九四立方メートルと増加しているが、何故か。
●ガラス固化の貯蔵の廃液を戻したためだ。廃液は蒸発するので月末で変化する。
○保安院への報告書を見ると高レベル廃液貯蔵槽の数が五月一五日のものより五月三十一日のものより異なる。増えているのは何故か。
*注、高レベル廃液貯蔵槽やプルトニウム溶液貯蔵槽の個数が十五基から二十一基に増えていた。
●予備貯蔵槽の個数を含め、廃液貯蔵槽の個数が一五基から二二基に増えたためだ。
○ガラス固化しないの

はなぜか、高レベル廃液が一向に減少していかない。東海村と低減の約束をしたはずだ。

●東海村と約束した二〇〇〇年十一月のときの四三三立方メートルを超えないようにと解釈している、それ以下にはなっている。

○英セラフィールド再処理工場ではノルウェー政府の申し入れがあり二〇一五年までに廃液を二〇〇立方メートル(これも多すぎるが)まで減らすとしている。日本も安全のため早く固化するべきだ。あと何年かかるのか。

●二〇〇七年のガラス固化開始以来二四七トン作った。今ある廃液をガラス固化すると四〇〇〇五〇〇体になるが何年かかるかは単純には予測が立てられない。十年以内とは行かぬだろう。廃液はきちんと管理しており漏洩はない。

○二〇〇九年の一月に六ヶ所再処理工場で一五〇リットルほど高レベル廃液が漏洩しそれを二週間ものあいだ気が付かないでいた。そして廃液の成分の収支誤差が約20%もあり最

大で広島原爆の放出放射能セシウムの一発分ほどが、どこにいったのかわからない状態だ。モニタリングをしつかりしていると言われている信頼できない。

○津波対策として電源車を留意し防水扉や窓の閉鎖をしたというがそれくらいでは安心出来ない。津波の動圧は想像を超える破壊力である。津波の去った後には瓦礫の山ができ電源車が目的地に到着できるまでには長時間かかる。

その間に廃液が沸騰したり水素爆発の可能性が高い。福島第一原発のような津波に襲われていたならば、東海工場の高レベル廃液はどうなっていたのか。

●一・一・一

○再処理は止めてほしい。特に廃液のままに置いて置くのは危険極まりない。ガラス固化だけでなく、別の方法も検討し、一刻も早く安全化するべきだ。

●私たちは研究機関であり、今後とも「ふげん」の使用済み燃料を使用した再処理の研究をしていく。

○研究機関ならば、福島

第一原発のような全電源喪失になった時でも絶対に放射能を環境に漏らさない研究をし、実用化してほしい。

●考えてみたい

○今回質問状の提出に際し口頭による回答をお願いしていたが、内容ある回答をもらえなかった。十二月二十八日を回答期限とするが、回答を受け取りに再度訪問する。今度こそ明確な説明を伴う回答を頂きたい。その日と場を設定してほしい。

第一原発のような全電源喪失になった時でも絶対に放射能を環境に漏らさない研究をし、実用化してほしい。

脱原発とうかい塾代表 相沢一正氏(談)

高レベル廃液の安全管理は失敗を許されせん。原研機構の説明では、

廃液の量について、「(タンクに)戻したから増えた」といいますが、トータルを示すべきでお願いします。廃液量はそんなに減少しておらず、村との協定を真摯に履行していない。ガラス固化施設は不具合が多く履行できないのではないか。全てを明らかにし、完璧の安全策を講ずるべきです。

東海再処理工場 四六時間の外部電源停電

波高があと一メートル高かったら 東海再処理工場

東海再処理工場も地震により停電となり、非常電源七基が立ち上がりました。隣接する新川沿いに約五・六メートルの津波が襲来。防潮堤は高さ六・六メートルで約一メートルの余裕があり、運良く浸水の危機を免れました。外部電源が復旧したのは約四六時間後でしたが、工業用水の断水が八五時間、水道水の断水が二六五時間続きました。

福島県二本松市 眞行寺保育園訪問

岩手のリンゴ届ける



茨城県東海村での要請行動のため車で盛岡を出発した岩手の会」の会員三人は、二本松市眞行寺に立ち寄り、盛岡と花巻のリンゴをお見舞いとして届けました。

眞行寺では、放射線量の高い寺院の屋根の吹き替えや毎日の落ち葉の回収など、除染のための懸命の作業を続けていました。

辛くも津波を免れた 東海第二原発

東海再処理工場は(株)日本原子力発電が営業する東海第二原発に隣接します。第二原発は三月一日地震により外部電源途絶に見舞われ、さらに最高五・四メートルの津波に襲われました。原子炉建屋は津波から免れましたが、海側の低い位置にあった非常用ディーゼル発電機は三基の冷却ポンプのうち一基が浸水で不調になりディーゼル発電機の一基が停止し、残る二基で辛くも電源を維持しました。

《週刊金曜日》 十月七日号から

東海第二原発 廃炉要請署名 第一次五万人分提出

東日本大震災により辛くも危機を脱し点検停止中の東海第二原発について「再稼働を中止し廃炉とすることを求める署名」五万一千四百三十五人が、十一月八日、約六十人の代表が茨城県庁を訪れ、橋本昌知事宛に提出されました。

各団体は来年四月までに十万人を目標にさらに取り組みを続けま